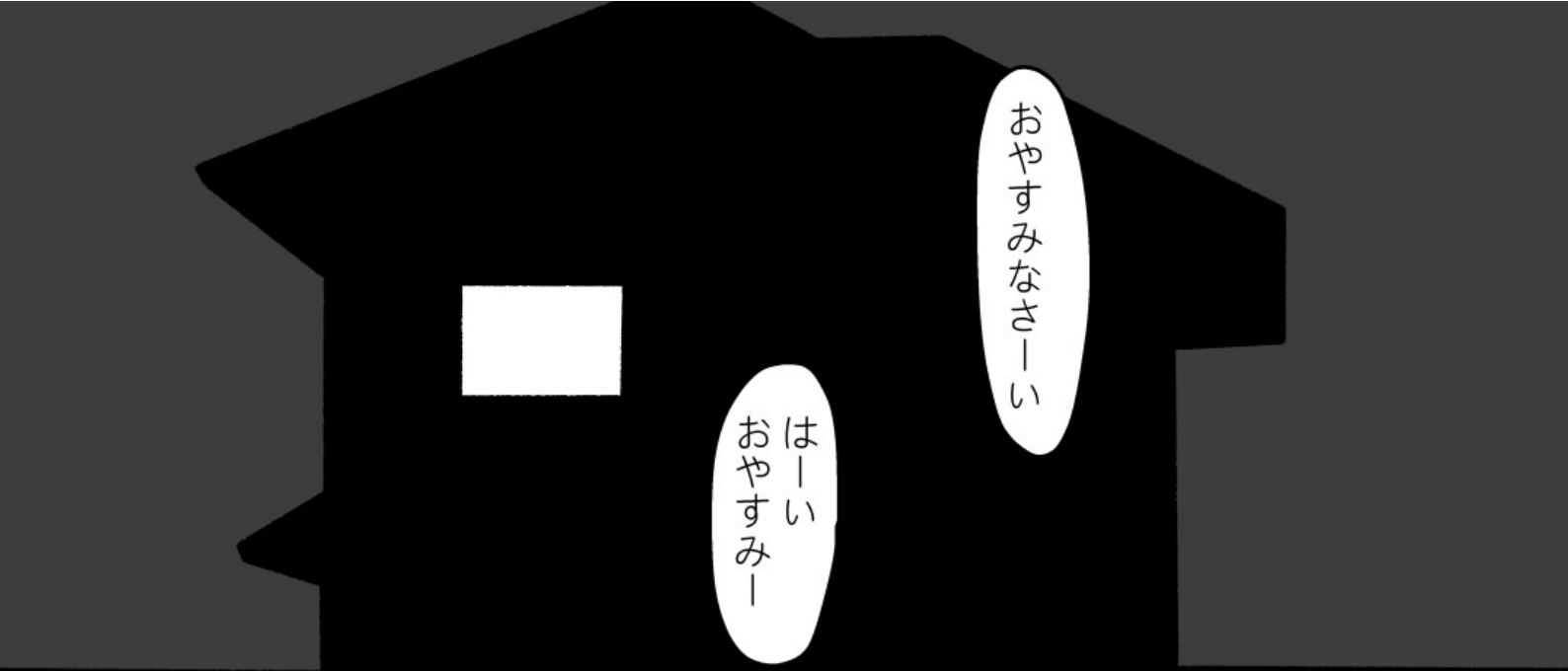


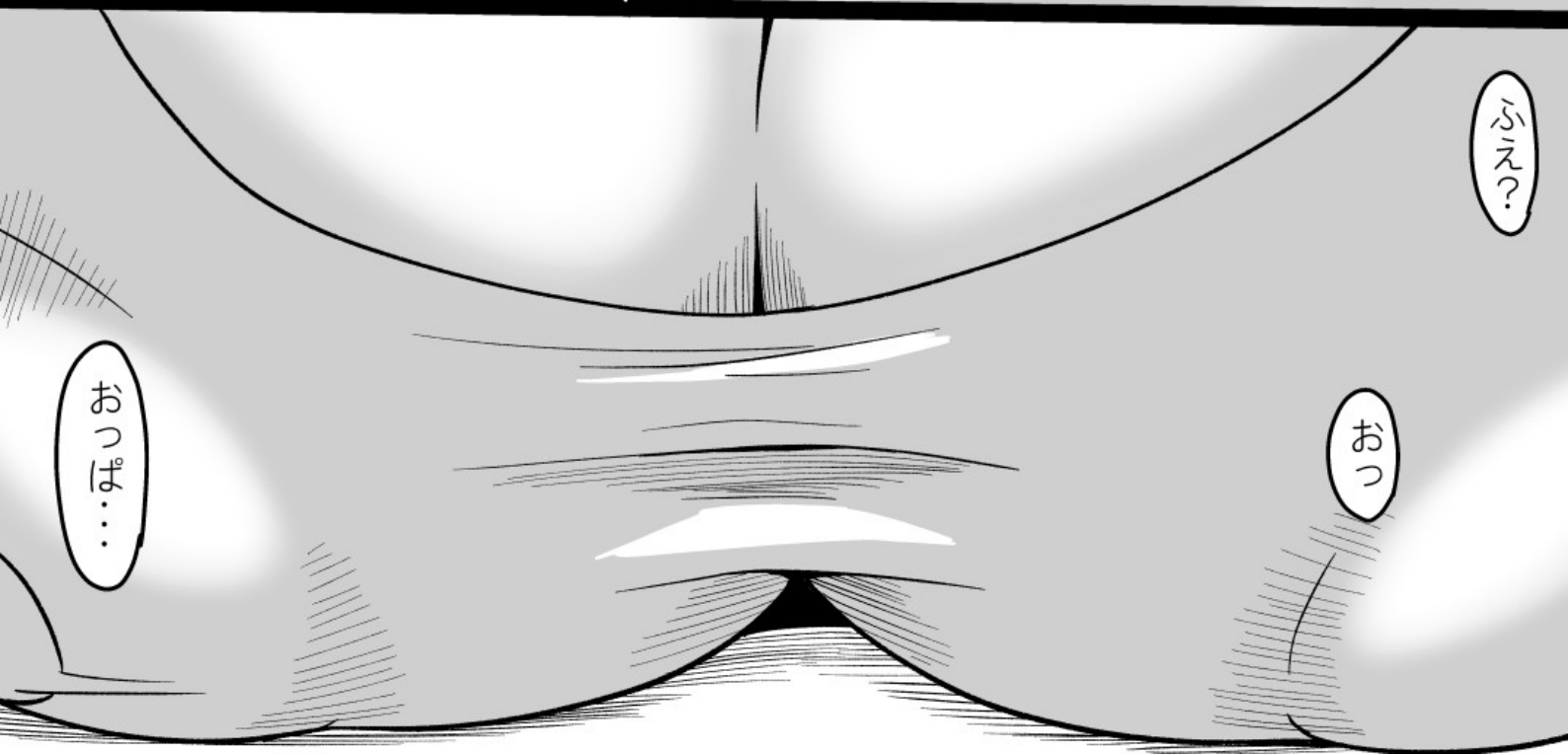
今夜また
霊の女が
現れる











ふん？

おっ

おっば...



うわあ…

こっち見てるよお…

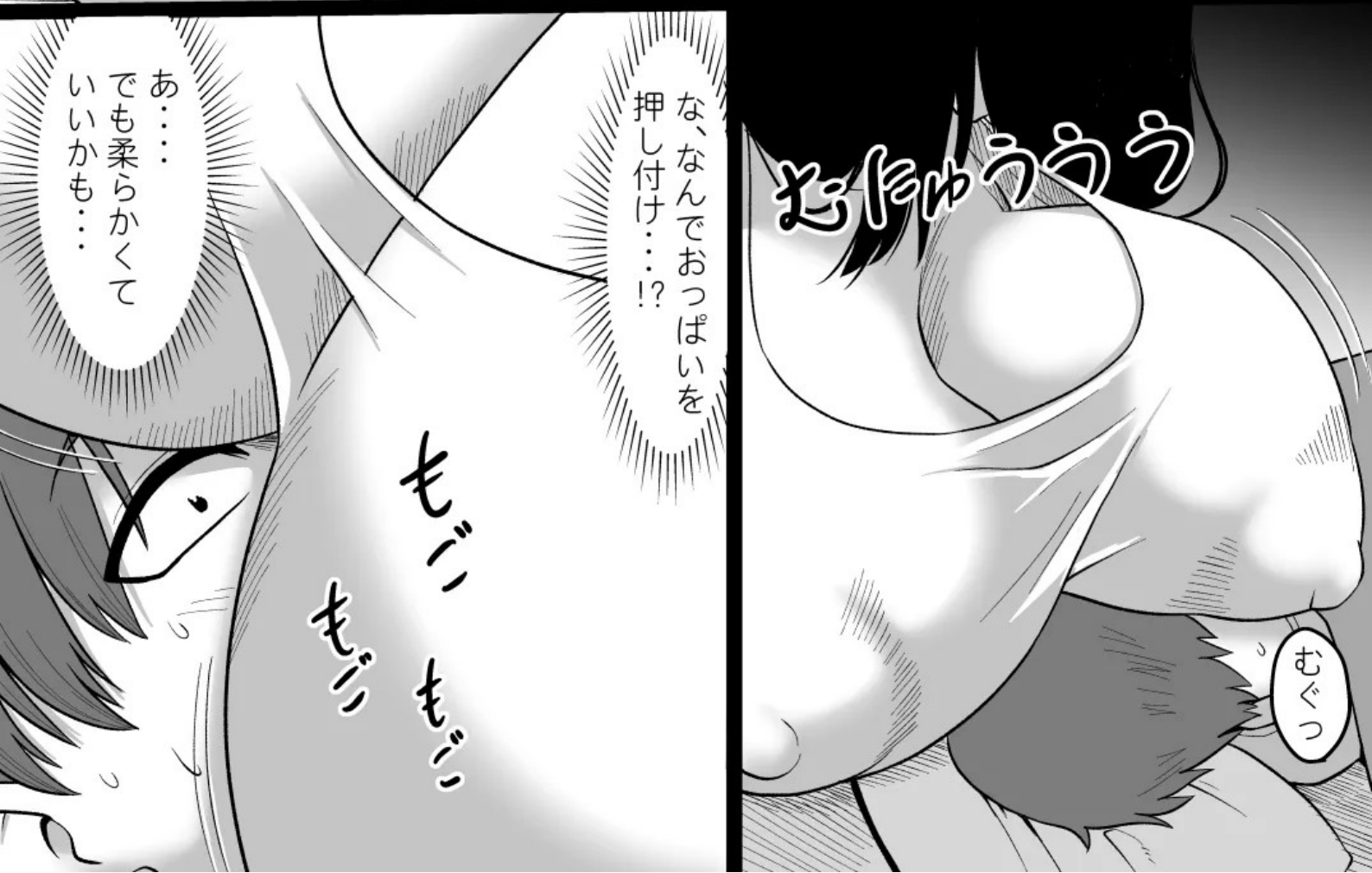
ゾロ

目が怖いよ…

近い近い近い！

ホィホィホィ

何か喋ってる！



むぐぐううう

むぐつ

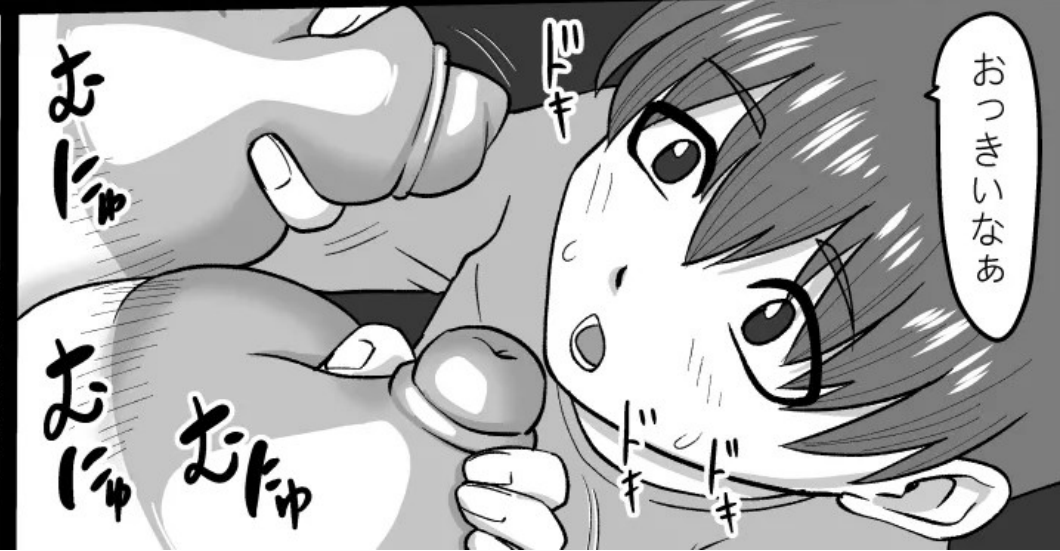
な、なんでおっぱいを
押し付け…!?

もじり
もじり

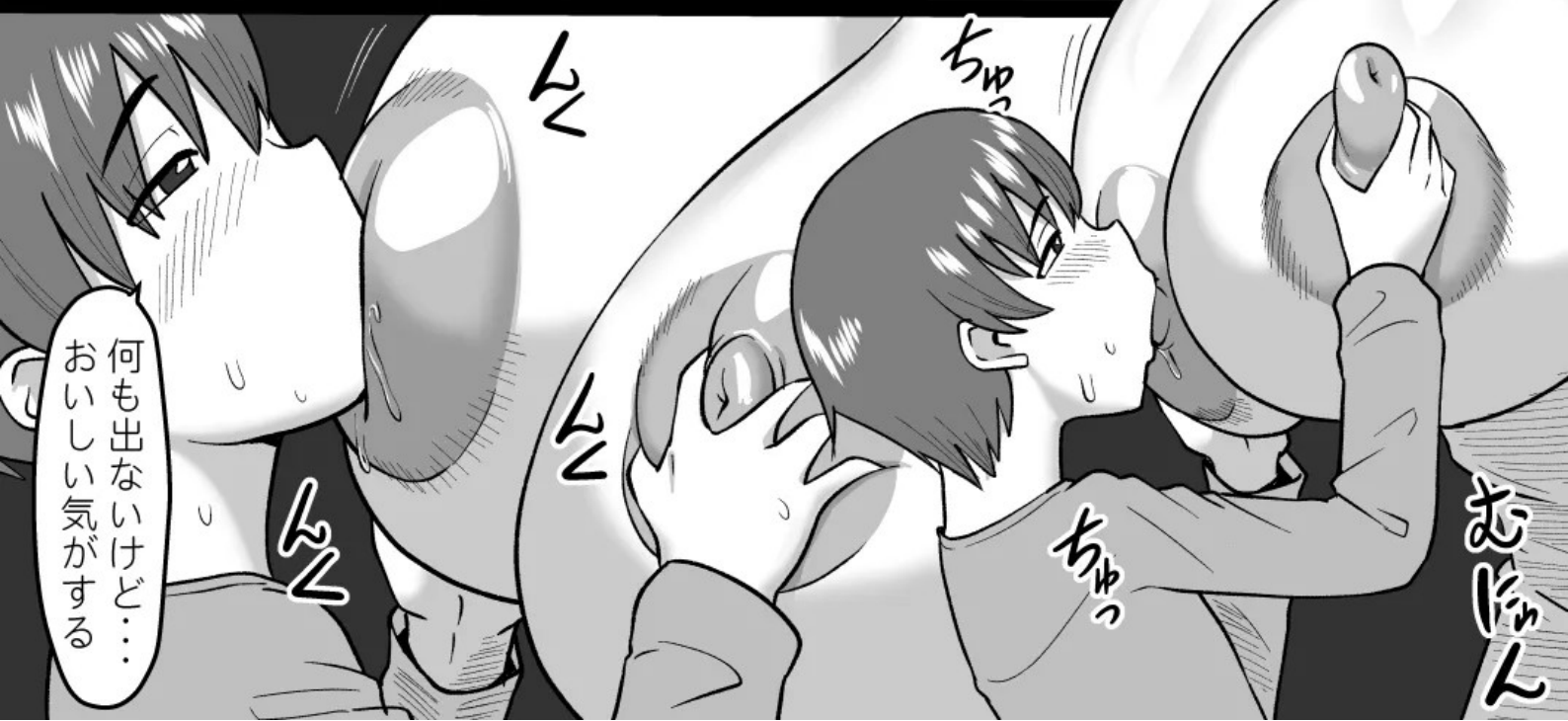
あ…
でも柔らかくて
いいかも…















おちんちん
食べてるの？

なっ
なにしてるの？

あつ

あああつ



れろお♡

れろ♡

んあああ♡
さつきよりも
ゾクゾク
する♡



あ、あれ？
おちんちんの形が
変わってる？



なんか…
出そう…
んんん…

おしっこ出ちゃうっ
やめてよお
んうっ

あっ あっ
出ちゃうっ
あっ
出ちゃうっ

ちゅぽ

ちゅぽ

ちゅぽ

ちゅぽ

ビクッ
ビクッ
ギョッ



ぶ
びゅっ

ん
んっ！

びゅるっ

びゅる。

びゅる。

ぢゅる
ううう
ううう
ううう

はっ
あっ
はっ
はああ

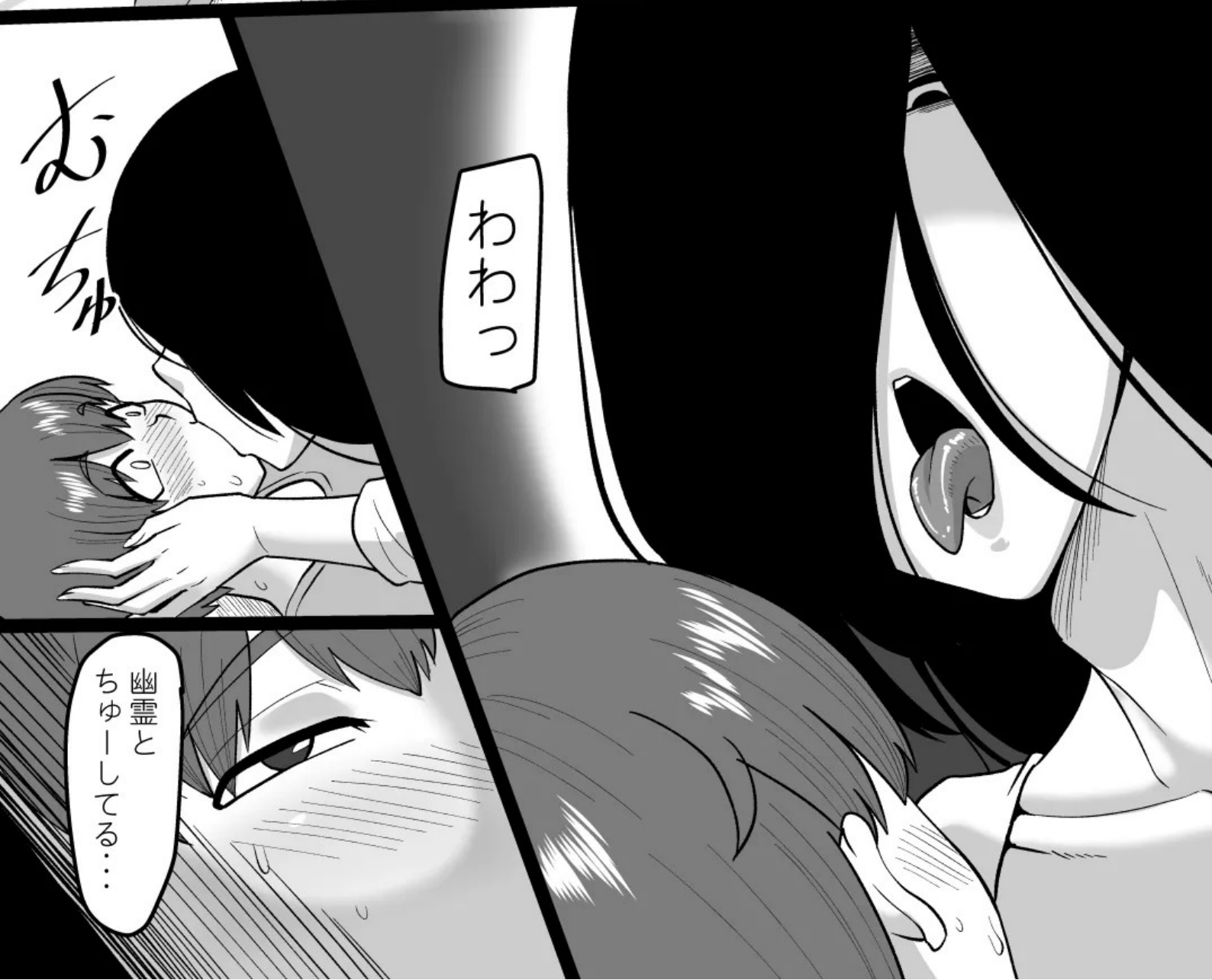
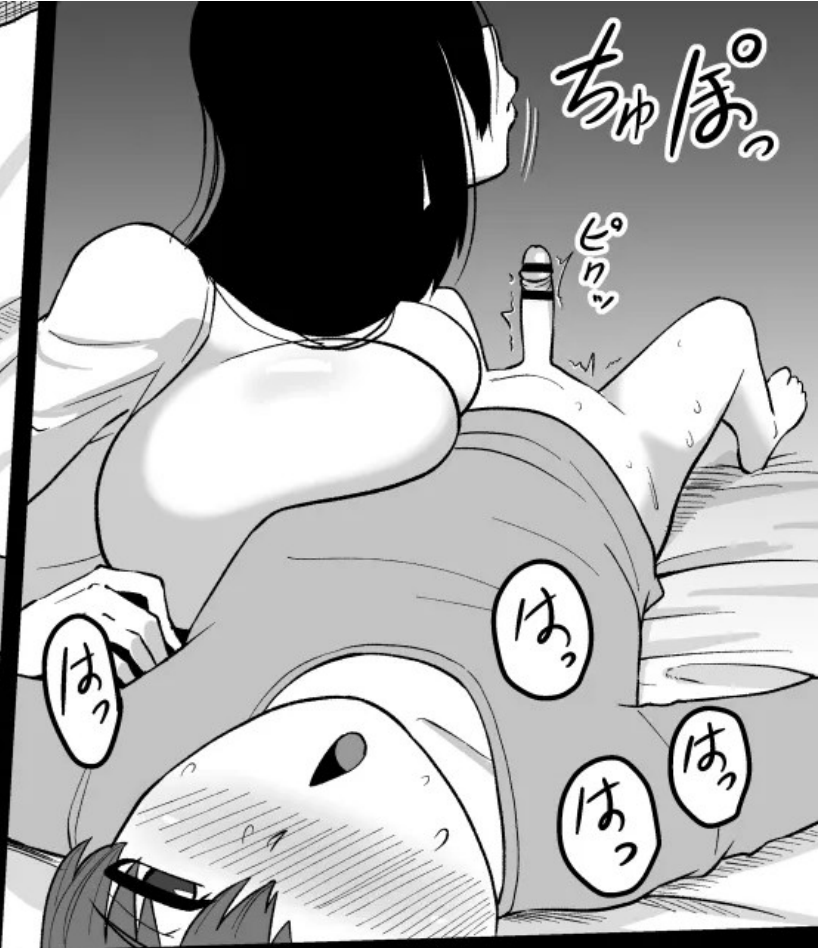
あうう

ああんっ

あひっ

びゅっ

びゅっ





残念に思う少年をよそに
数日が経ち……

ほのかな期待を持つも
少年の前にあの女が姿を
現すことは無かった

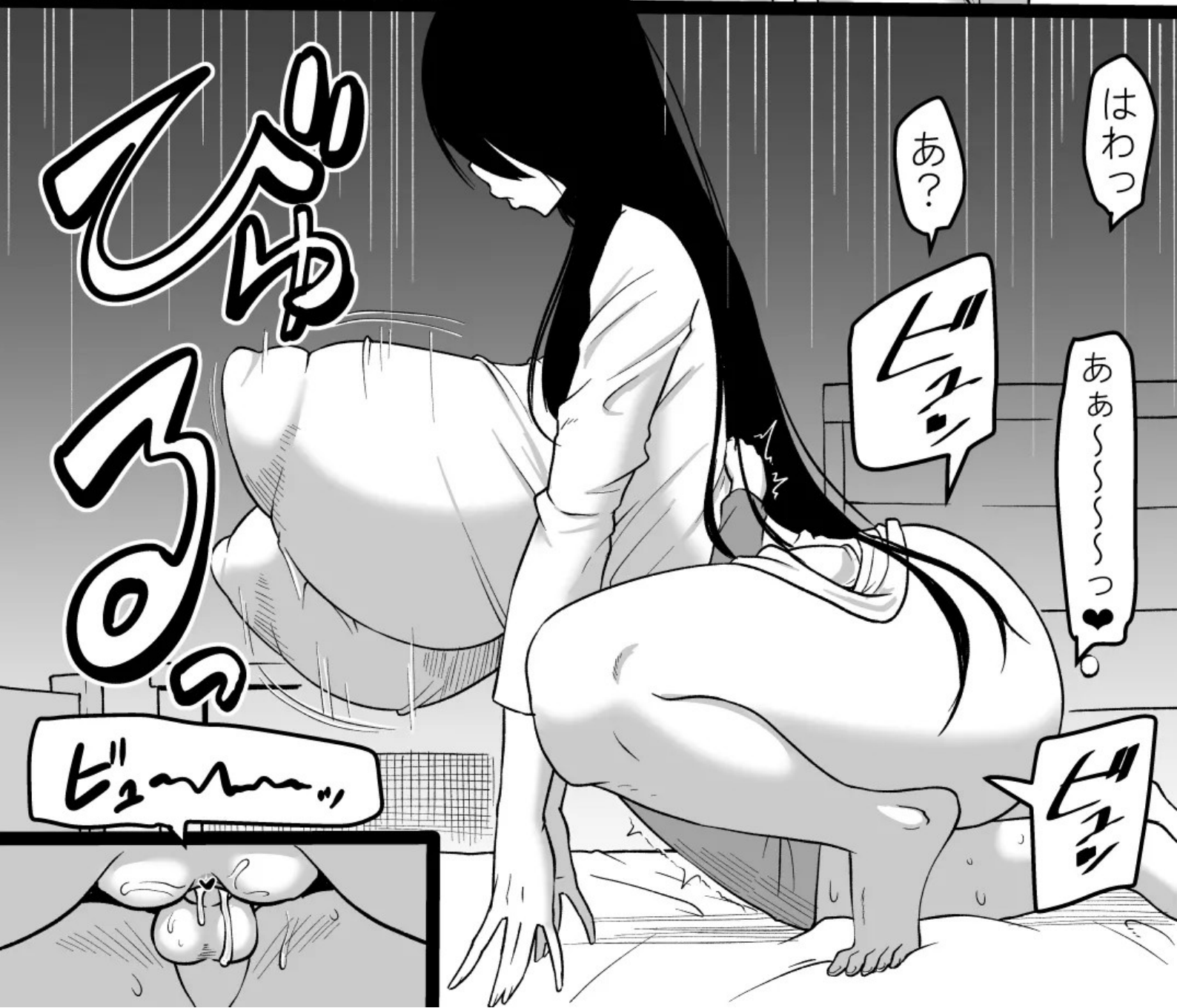
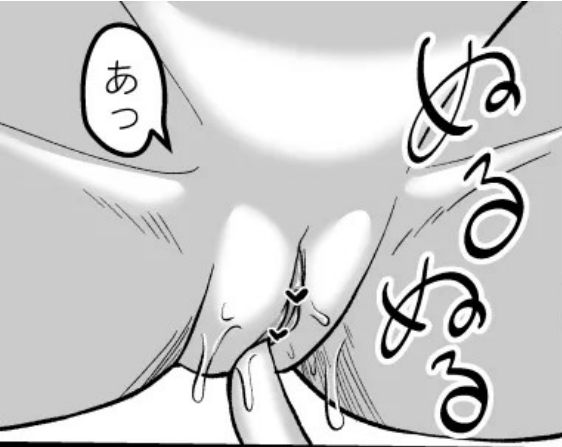




エッチなことを期待して
幼くも硬くなった
ちんちんを出していた

少年は母親以外の女の股を
初めて見た
これから始まるであろう
行為は何も知らないが

女はちんちんをまんこに
当てがった
少年は意味は分からずとも
淫猥なことが始まる予感に
胸を高鳴らせた





ぶるん

はぁっ♡

ぶるん

あっ♡

ぎゅん

ぎゅん

あっ♡

ん♡

おっぱい...

おっぱい

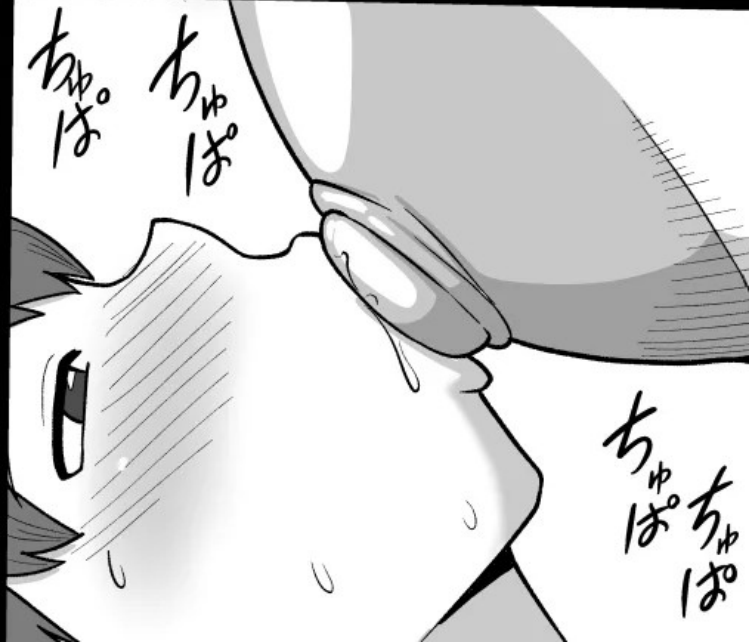
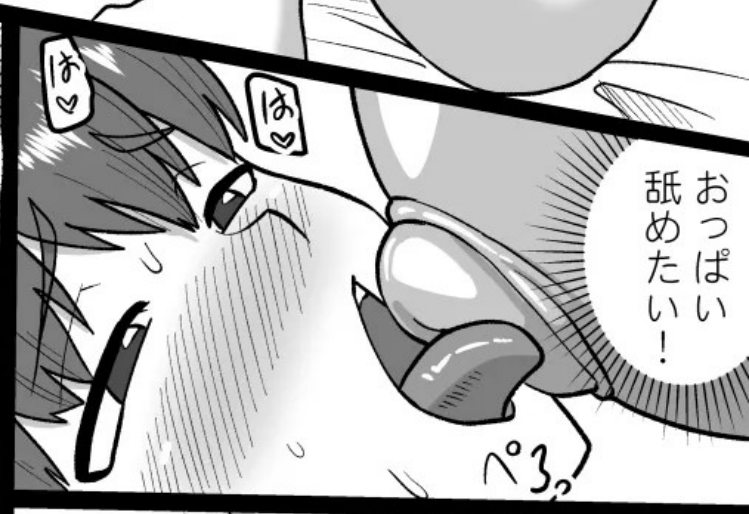
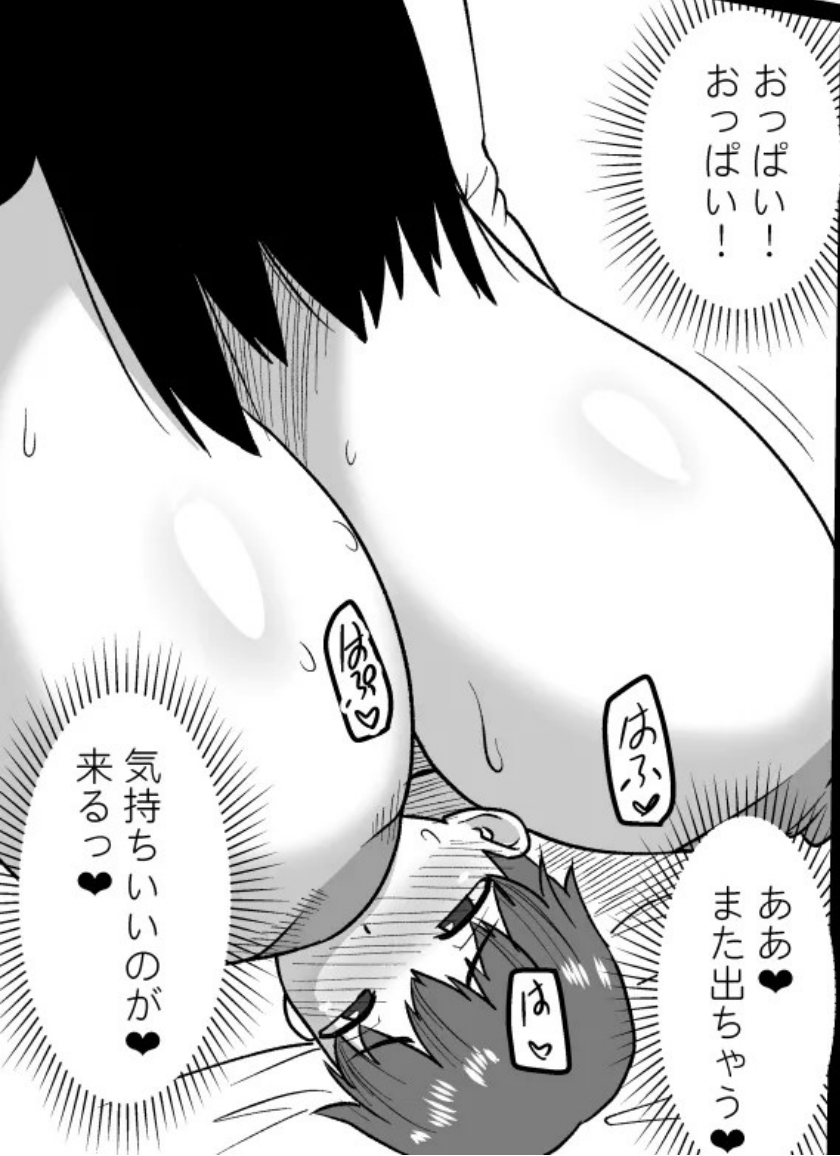
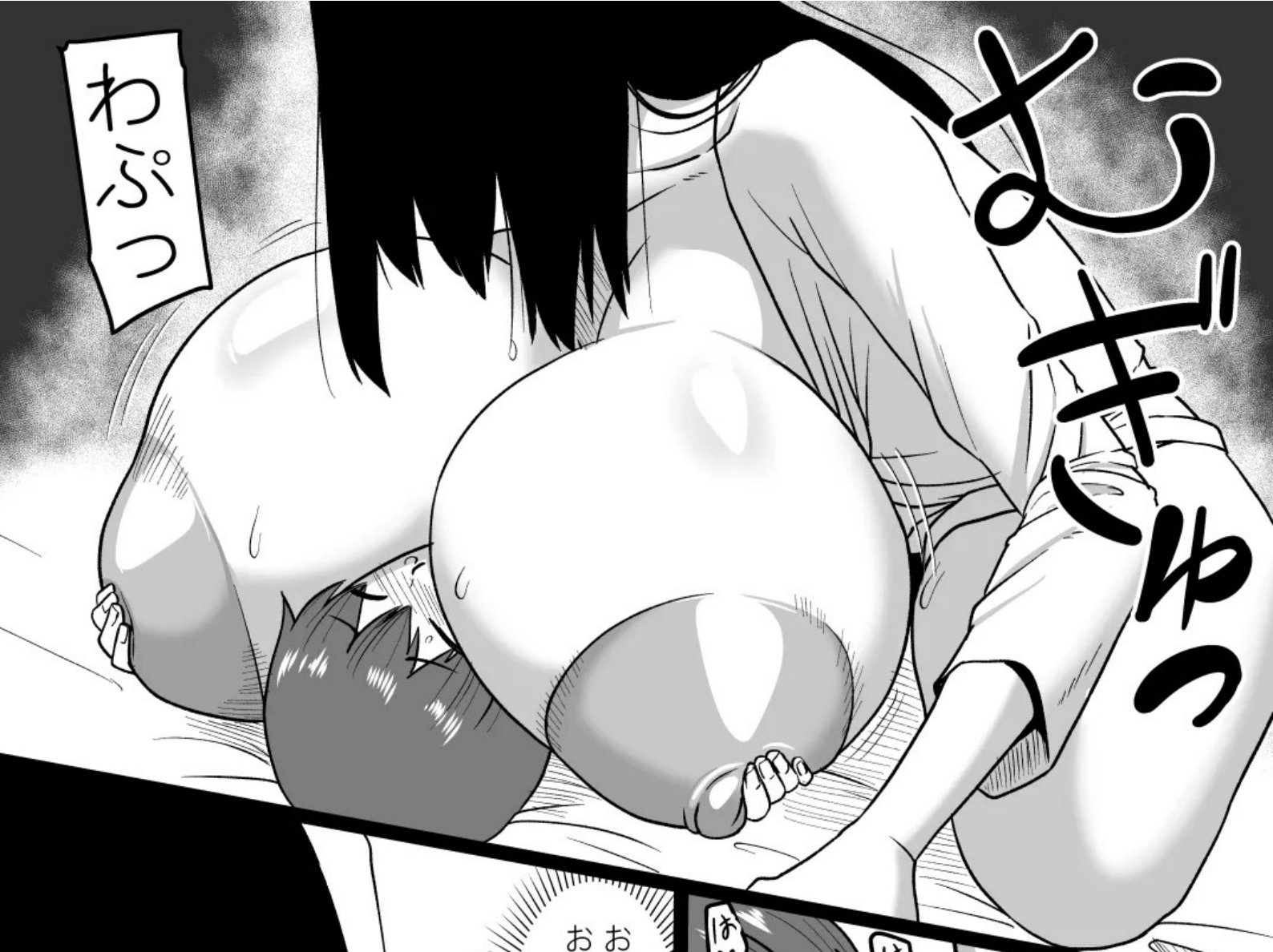
おっぱい

ぐりゅん

ぐりゅん

あっ♡

ぐりゅん



あつ！あつ♡
出ちやうつ！

またお姉さんの中に
気持ちいいの出ちゃうよ！
んうううううっ ♡

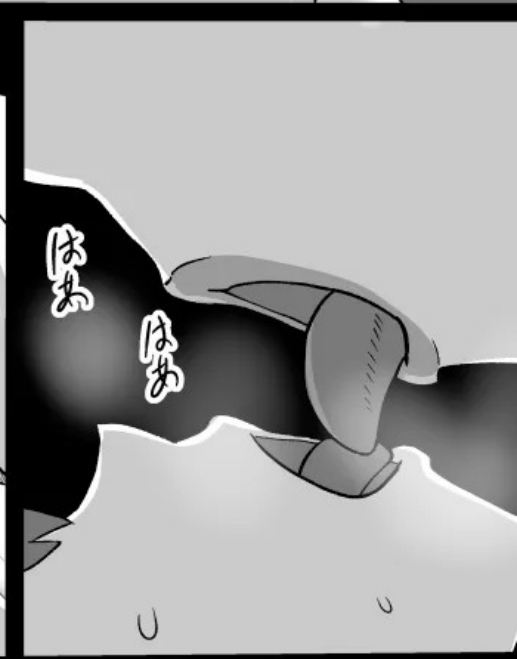
ズ
ン
ン

んあ♡

あ♡

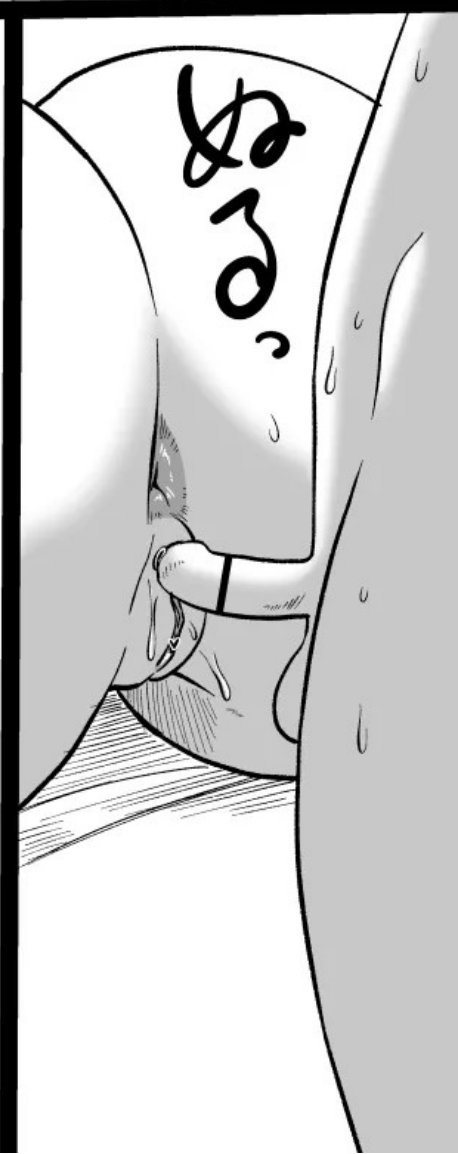
あふ♡

よう♡



その日から女は
少年の元へ頻繁に
現れるようになった





うう♥
お姉さんのお股
気持ちいい♥
ちんちん入ると
なんでこんなに
気持ちいいの？

パチパチパチパチ

フーフー

んう♥
出るよお♥
気持ちいいおしっこ
出ちゃうよ♥

少年は好きなように
できる女の身体に
夢中になっていった

好きなだけちんぽを
擦りつけ
好きなだけ射精を
堪能している

ドパ

ピ





おっぱいに
ぎゅうつてされるの
好き♡

おっぱいに
ぎゅうつてされるの
好き♡

たろ

たろ

たろ

たろ

たろ

あ♡

あ♡

は♡

おっぱいに
出ちやうつ♡

出ちやうつ♡

あ♡♡♡
あ♡♡♡

いっ
びゅん

いっ
びゅん

いっ
びゅん

ぢゅるう
ぢゅるう

ぢゅるう

バクバクゾク♡





ちゅるるる♡

ほ♡

ほおお♡

ふう〜♡

ふう〜♡

出ちやいそお♡

はへ♡

はへ♡

お姉さん♡

ちゅ

ちゅっ

ピン

ピン

ピン

ピン

あ♡

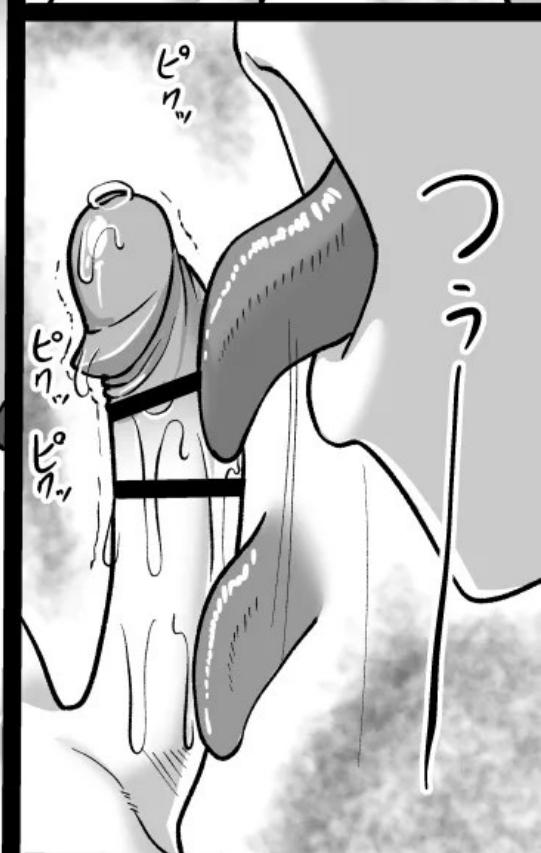
あ♡

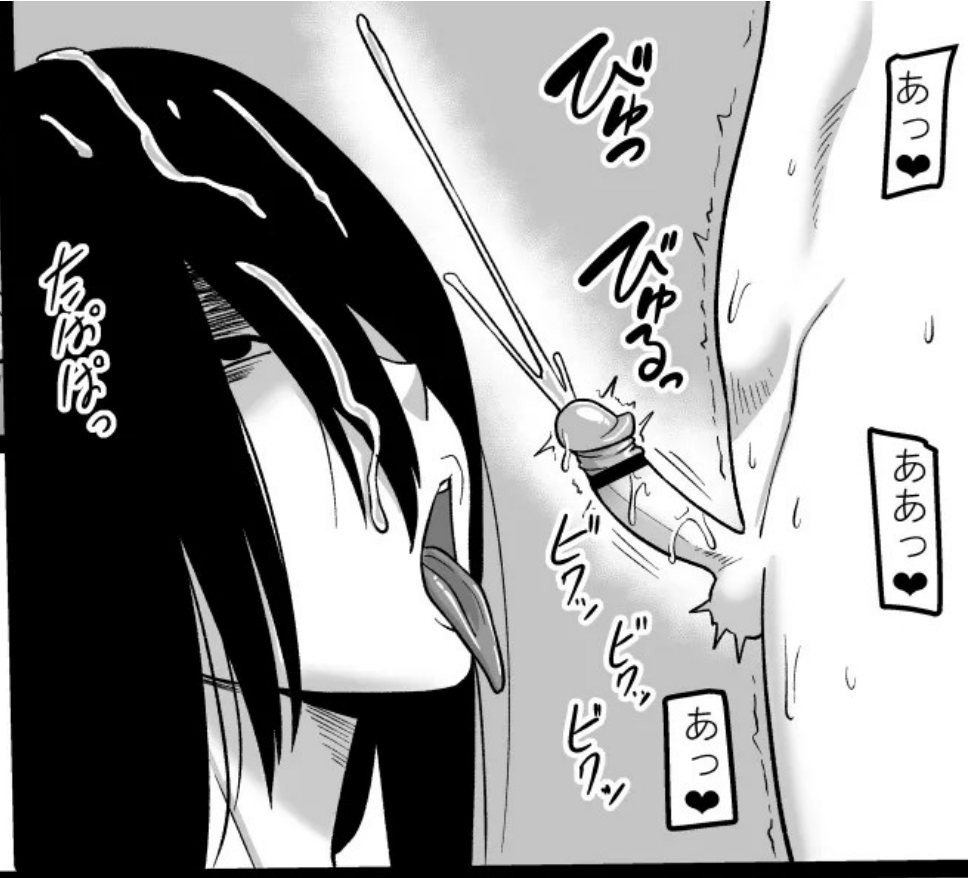
あ♡

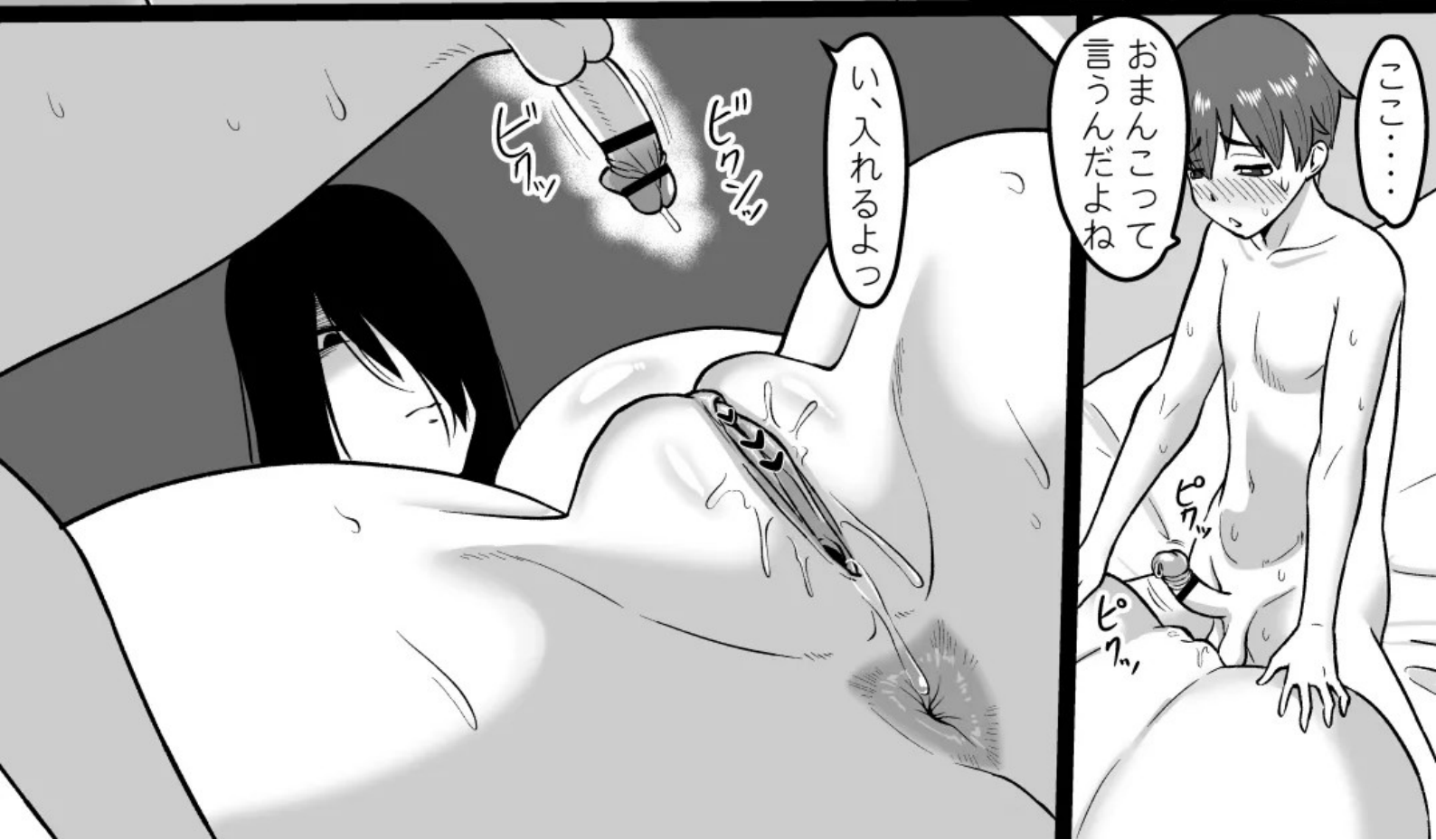
カリカリ♡

あ♡

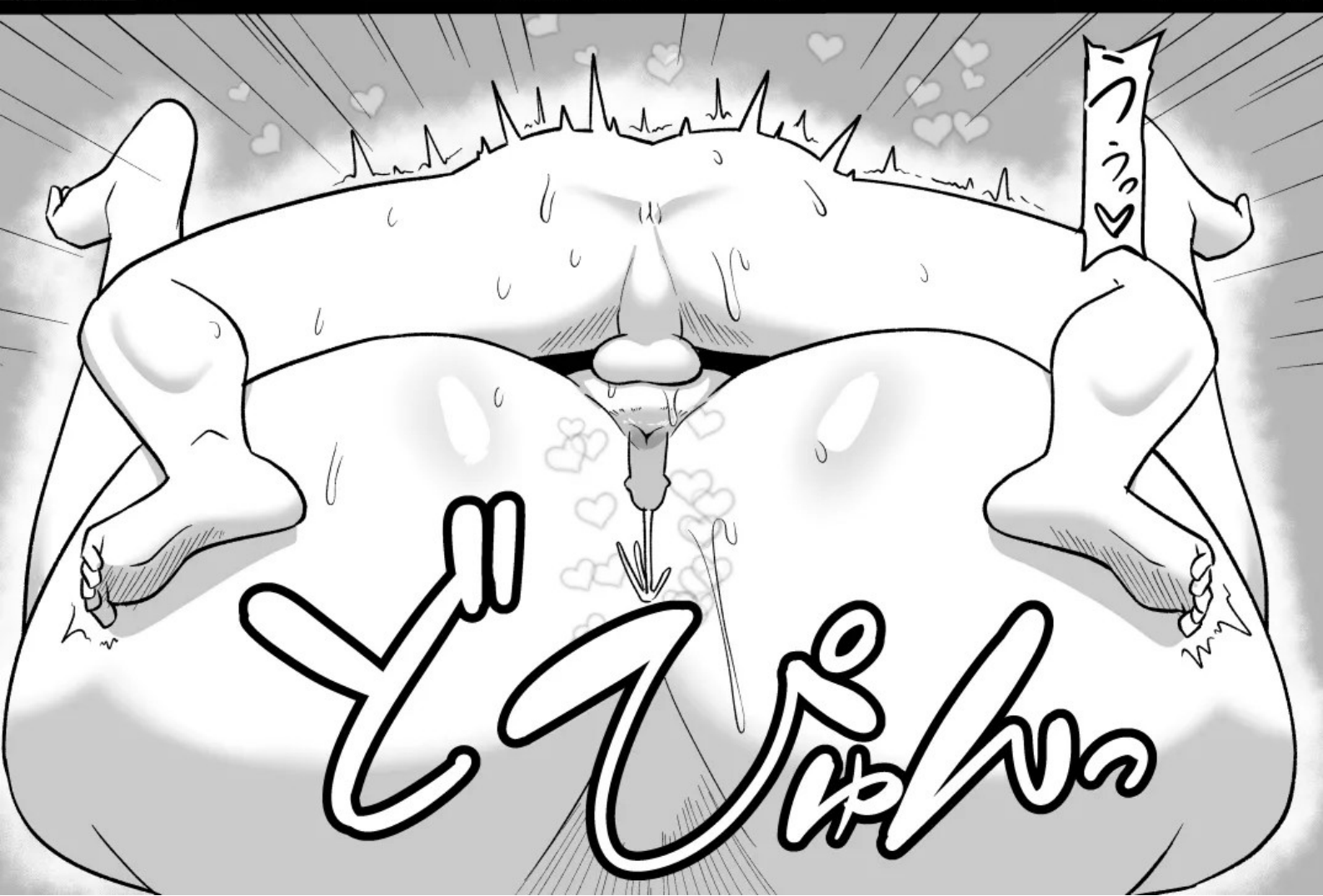
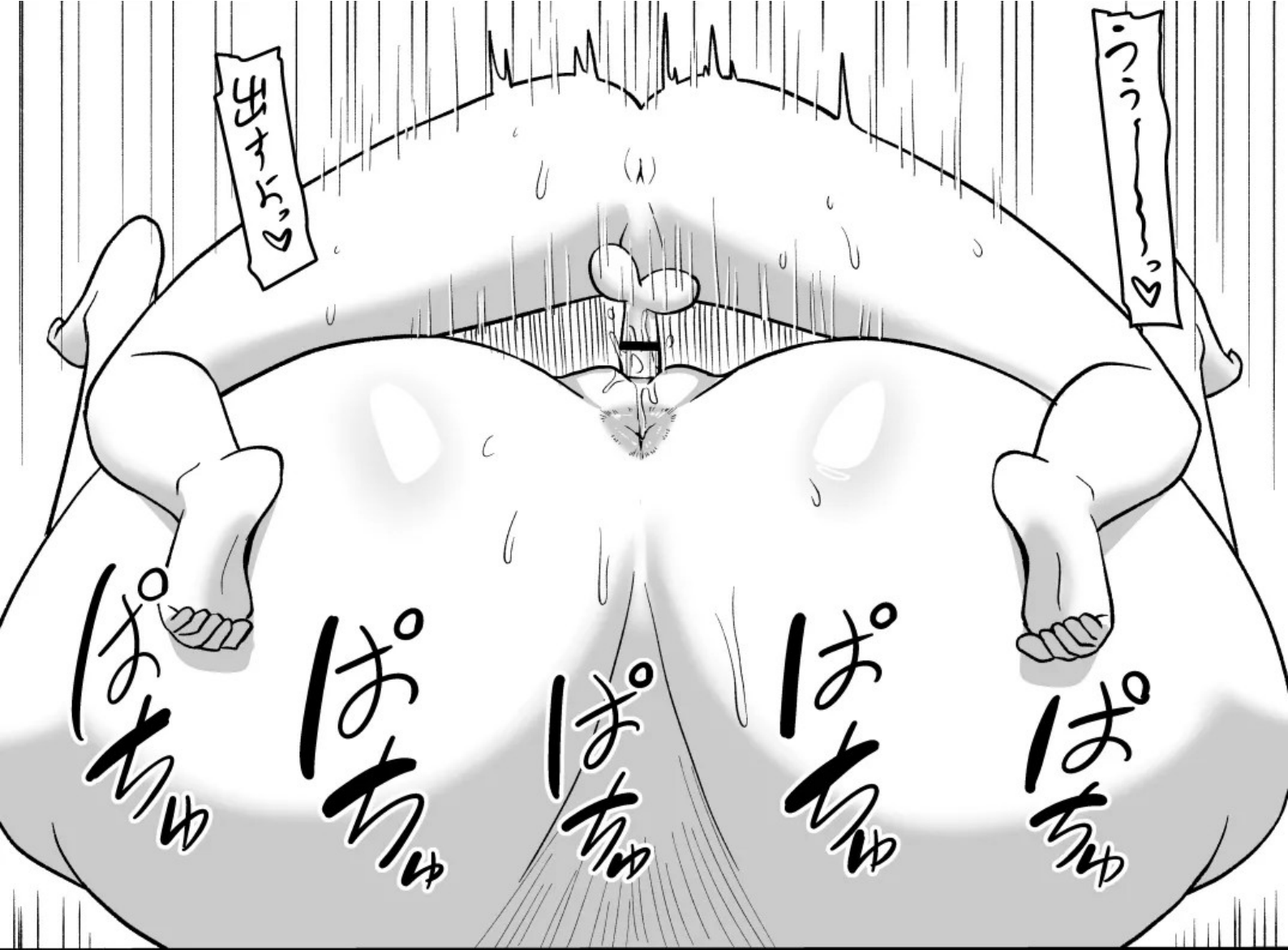
れ♡



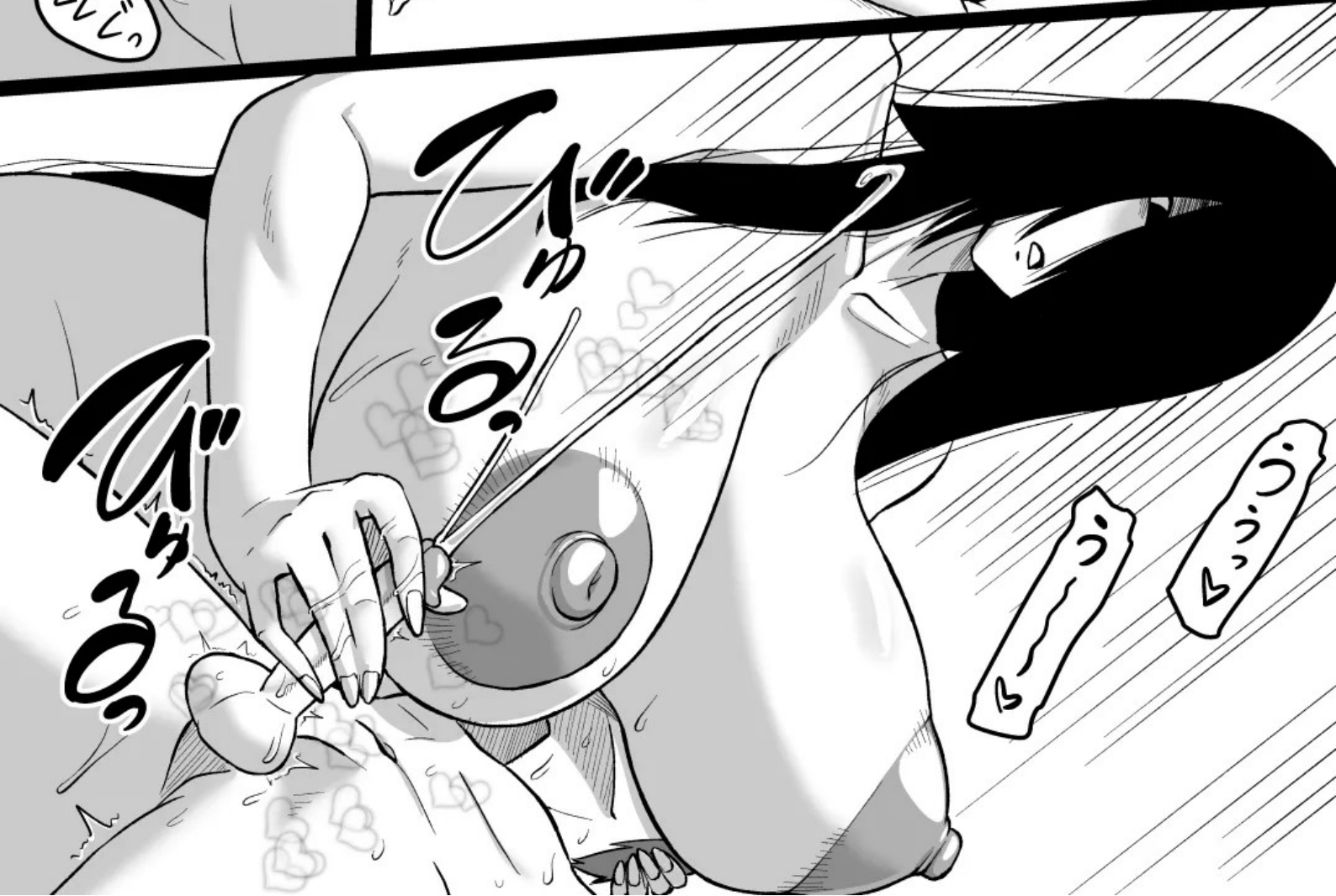




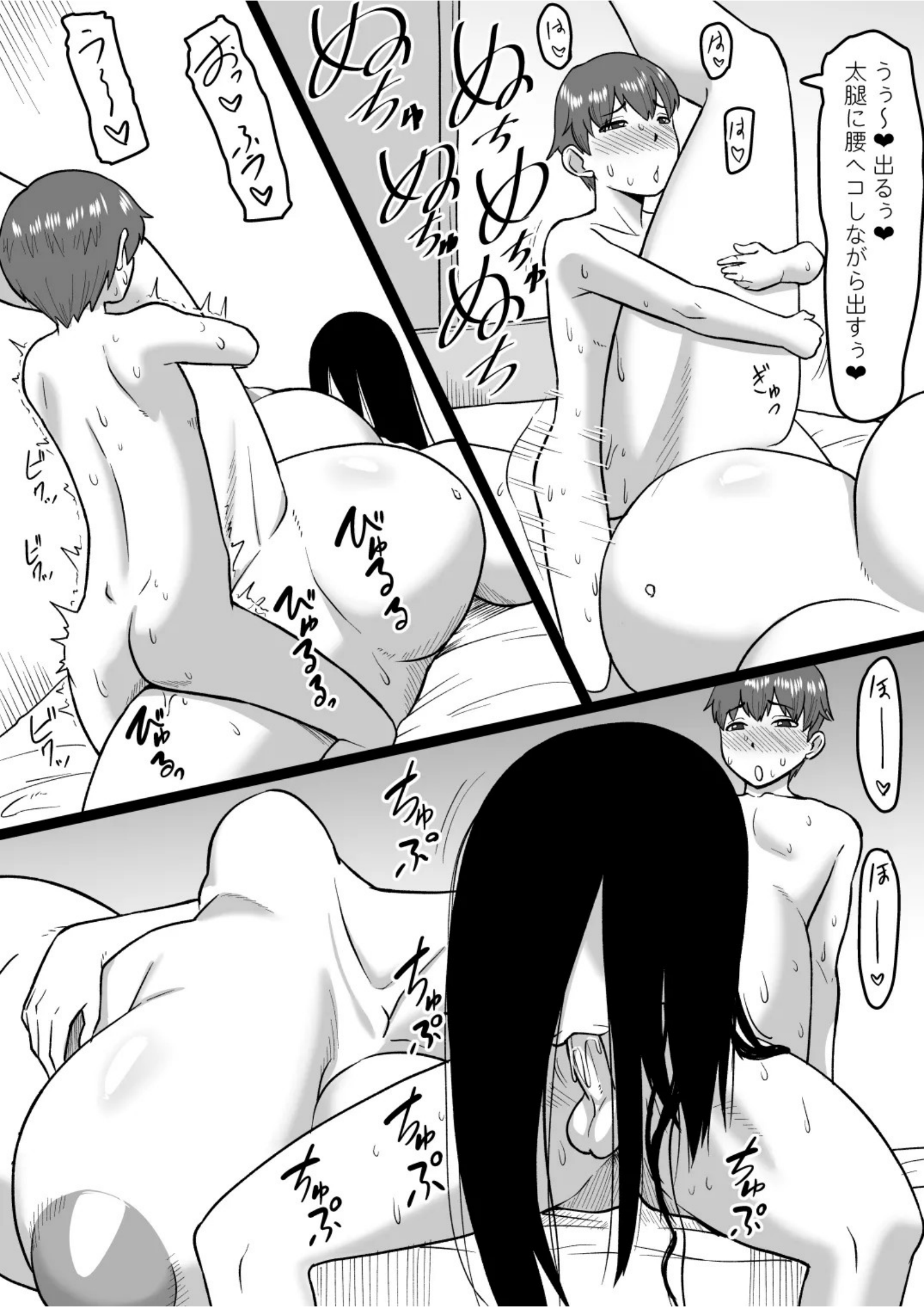












ううう♥出るう♥
太腿に腰へコしながら出すう♥

ぬちゅぬちゅ
ぬちゅぬちゅ
ぬちゅぬちゅ

あう♥ふう♥

うう♥

むゅるる

むゅるる

むゅるる

ちゅふ

ちゅふ

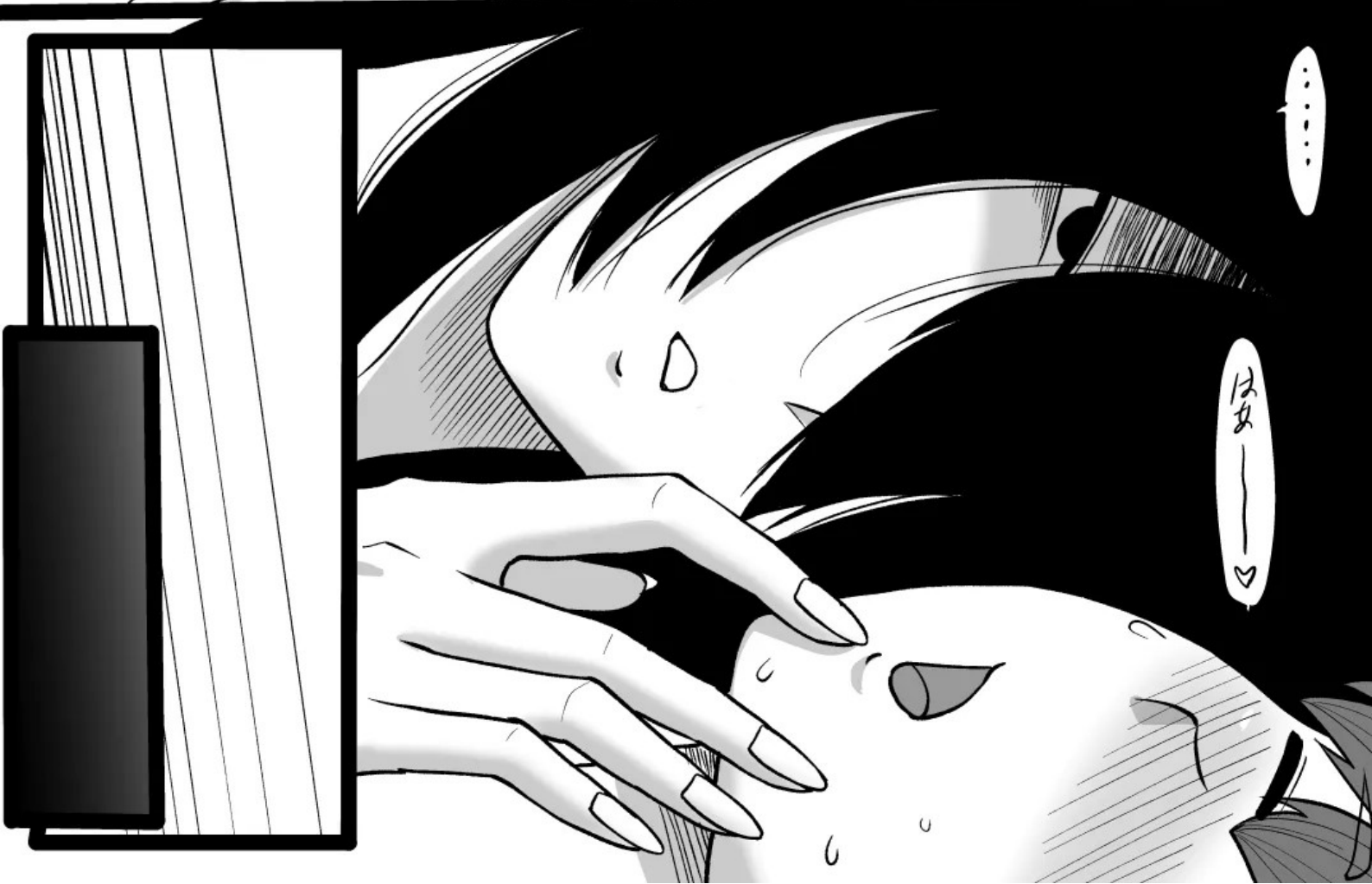
ちゅふ

ちゅふ

ちゅふ

ほ——♥

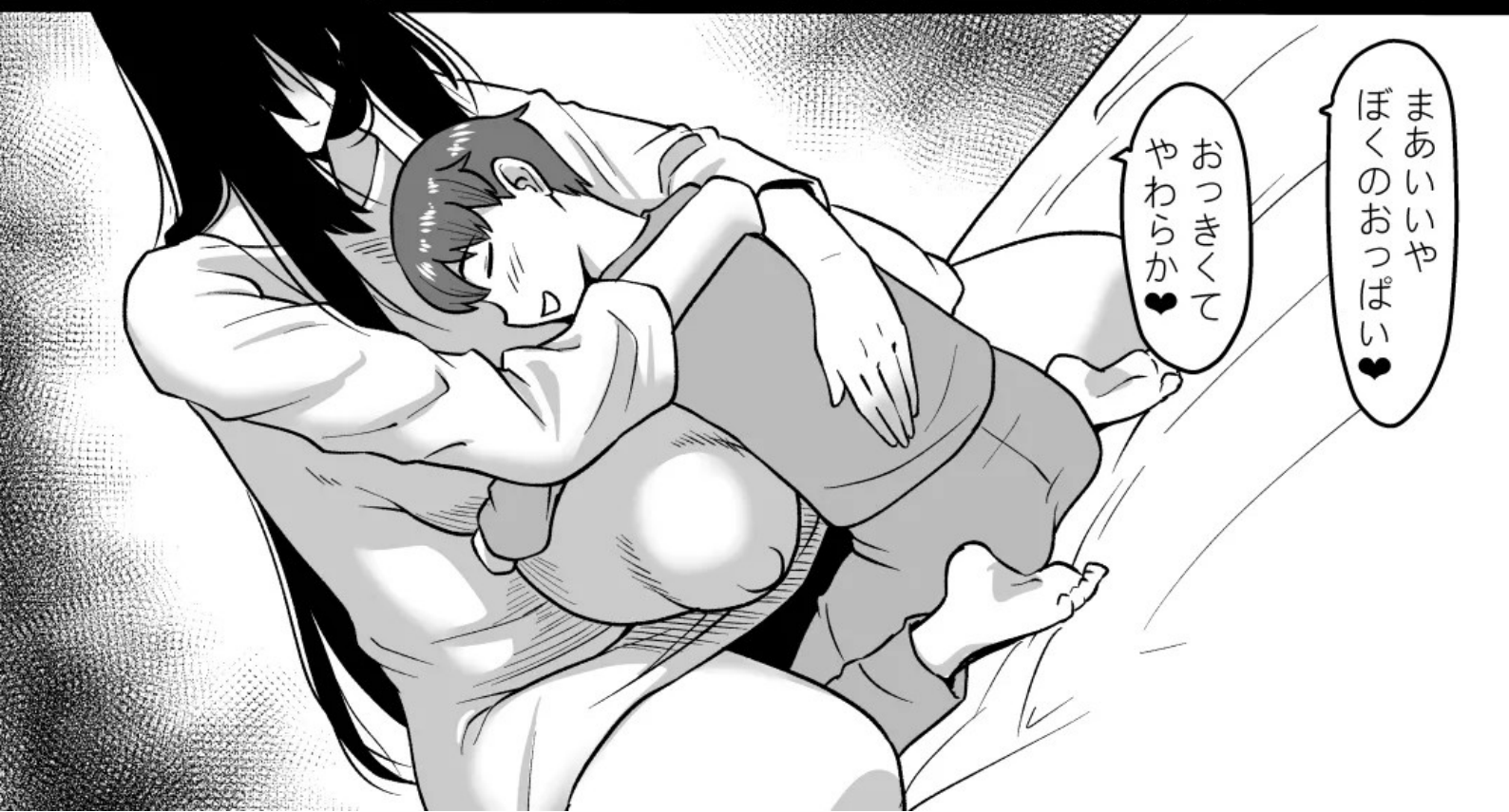
ほ——♥





あ、あれ？
お腹が戻ってる？

不思議なことに
女の孕んだと思わしき
腹は以前と変わらぬ状態に
戻っていた
どこかで産んだのか、
そもそも孕んだわけでは
なかったのか……



まあいいや
ぼくのおっぱい♥

おつきくて
やわらか♥



もう
離さない♡